

# 大賞4氏、奨励賞1氏が受賞

## 経営者「環境力」大賞顕彰式

### 環境文明21

経営者「環境力」大賞顕彰式および

問の加藤三郎氏は、次の要旨を述べた。

環境文明21は三〇年前に立ち上げた。その当時から地球温暖化と言われる地球環境問題が深刻になってきた。このままいくと非常に大きな問題となる。そのため、役所も企業も努力しなければいけない。独立した立場の市民組織の意見も重要だと思いついて、環境文明21が立ち上がった。発足当時から企業との付き合いの中で、特に企業の場合、経営者の力が非常に重要だと気づき、会員と考えた結果、経営者に着目して経営者「環境力」大賞を設け、経営者の持っている環境に対する思い、技術的な対応などを見せていた

き、表彰することで社会全体の底上げを図りたいと、NPOとして考えた。では、どういった経営が望ましいのか議論の末、半年間かけ二項目にまとめ、経営者自ら判断し、自己評価してもらい、環境文明21の審査員一〇人で審査して決めている。

これを通して少しでも日本の企業社会全体が、環境を大事にしなから経営をすることで、社員も環境を考えて幸せになっていく。そして、社会全体に影響を与えていくことができる。

祝辞は経営者「環境力」クラブ副会長の大川哲郎・大川印刷代表取締役が、オンラインで次の要旨を伝えた。

「SDGsの認知度が上がり、環境に対する取り組みも増えていく。環境に対する取り組みが高まっているが、その一方で、実際の具体的な取り組みや成果による環境と社会の両立はまだまだ。受賞者に敬意を表します。大賞はスタートです。私の好きなドラッカーさんは「成果は組織の外にある」と言っています。どのような社会的にインパクトを与え、環境分野で言えば、皆さんが事業や環境活動を

通じて取り組み始め、具体的に活動が成果として出せるかどうかにかかっている。

顕彰式では、受賞者発表・授賞理由の紹介および賞状授与を、藤村代表理事が務め、一人ひとりの会社組織と地域における受賞者の具体的な環境への取り組み、活動のリーダーシップをあげ、評価点を解説した。大賞受賞者表彰後に行われた受賞者による「私の環境力」発表は次の通り。

【環境力】大賞受賞者 浅沼晃・盛岡信用金庫理事長(岩手県盛岡市、金融・保険業)「私の環境力」

「環境文明21(藤村コノエ代表理事)は、次の要旨を述べた。

「環境文明21は三〇年前に立ち上げた。その当時から地球温暖化と言われる地球環境問題が深刻になってきた。このままいくと非常に大きな問題となる。そのため、役所も企業も努力しなければいけない。独立した立場の市民組織の意見も重要だと思いついて、環境文明21が立ち上がった。発足当時から企業との付き合いの中で、特に企業の場合、経営者の力が非常に重要だと気づき、会員と考えた結果、経営者に着目して経営者「環境力」大賞を設け、経営者の持っている環境に対する思い、技術的な対応などを見せていた

き、表彰することで社会全体の底上げを図りたいと、NPOとして考えた。では、どういった経営が望ましいのか議論の末、半年間かけ二項目にまとめ、経営者自ら判断し、自己評価してもらい、環境文明21の審査員一〇人で審査して決めている。

これを通して少しでも日本の企業社会全体が、環境を大事にしなから経営をすることで、社員も環境を考えて幸せになっていく。そして、社会全体に影響を与えていくことができる。

祝辞は経営者「環境力」クラブ副会長の大川哲郎・大川印刷代表取締役が、オンラインで次の要旨を伝えた。

「SDGsの認知度が上がり、環境に対する取り組みも増えていく。環境に対する取り組みが高まっているが、その一方で、実際の具体的な取り組みや成果による環境と社会の両立はまだまだ。受賞者に敬意を表します。大賞はスタートです。私の好きなドラッカーさんは「成果は組織の外にある」と言っています。どのような社会的にインパクトを与え、環境分野で言えば、皆さんが事業や環境活動を

通じて取り組み始め、具体的に活動が成果として出せるかどうかにかかっている。

顕彰式では、受賞者発表・授賞理由の紹介および賞状授与を、藤村代表理事が務め、一人ひとりの会社組織と地域における受賞者の具体的な環境への取り組み、活動のリーダーシップをあげ、評価点を解説した。大賞受賞者表彰後に行われた受賞者による「私の環境力」発表は次の通り。

【環境力】大賞受賞者 浅沼晃・盛岡信用金庫理事長(岩手県盛岡市、金融・保険業)「私の環境力」

「環境文明21(藤村コノエ代表理事)は、次の要旨を述べた。

「環境文明21は三〇年前に立ち上げた。その当時から地球温暖化と言われる地球環境問題が深刻になってきた。このままいくと非常に大きな問題となる。そのため、役所も企業も努力しなければいけない。独立した立場の市民組織の意見も重要だと思いついて、環境文明21が立ち上がった。発足当時から企業との付き合いの中で、特に企業の場合、経営者の力が非常に重要だと気づき、会員と考えた結果、経営者に着目して経営者「環境力」大賞を設け、経営者の持っている環境に対する思い、技術的な対応などを見せていた

き、表彰することで社会全体の底上げを図りたいと、NPOとして考えた。では、どういった経営が望ましいのか議論の末、半年間かけ二項目にまとめ、経営者自ら判断し、自己評価してもらい、環境文明21の審査員一〇人で審査して決めている。

これを通して少しでも日本の企業社会全体が、環境を大事にしなから経営をすることで、社員も環境を考えて幸せになっていく。そして、社会全体に影響を与えていくことができる。

祝辞は経営者「環境力」クラブ副会長の大川哲郎・大川印刷代表取締役が、オンラインで次の要旨を伝えた。

「SDGsの認知度が上がり、環境に対する取り組みも増えていく。環境に対する取り組みが高まっているが、その一方で、実際の具体的な取り組みや成果による環境と社会の両立はまだまだ。受賞者に敬意を表します。大賞はスタートです。私の好きなドラッカーさんは「成果は組織の外にある」と言っています。どのような社会的にインパクトを与え、環境分野で言えば、皆さんが事業や環境活動を

通じて取り組み始め、具体的に活動が成果として出せるかどうかにかかっている。

顕彰式では、受賞者発表・授賞理由の紹介および賞状授与を、藤村代表理事が務め、一人ひとりの会社組織と地域における受賞者の具体的な環境への取り組み、活動のリーダーシップをあげ、評価点を解説した。大賞受賞者表彰後に行われた受賞者による「私の環境力」発表は次の通り。

【環境力】大賞受賞者 浅沼晃・盛岡信用金庫理事長(岩手県盛岡市、金融・保険業)「私の環境力」

「環境文明21(藤村コノエ代表理事)は、次の要旨を述べた。

「環境文明21は三〇年前に立ち上げた。その当時から地球温暖化と言われる地球環境問題が深刻になってきた。このままいくと非常に大きな問題となる。そのため、役所も企業も努力しなければいけない。独立した立場の市民組織の意見も重要だと思いついて、環境文明21が立ち上がった。発足当時から企業との付き合いの中で、特に企業の場合、経営者の力が非常に重要だと気づき、会員と考えた結果、経営者に着目して経営者「環境力」大賞を設け、経営者の持っている環境に対する思い、技術的な対応などを見せていた

「環境文明21は三〇年前に立ち上げた。その当時から地球温暖化と言われる地球環境問題が深刻になってきた。このままいくと非常に大きな問題となる。そのため、役所も企業も努力しなければいけない。独立した立場の市民組織の意見も重要だと思いついて、環境文明21が立ち上がった。発足当時から企業との付き合いの中で、特に企業の場合、経営者の力が非常に重要だと気づき、会員と考えた結果、経営者に着目して経営者「環境力」大賞を設け、経営者の持っている環境に対する思い、技術的な対応などを見せていた

き、表彰することで社会全体の底上げを図りたいと、NPOとして考えた。では、どういった経営が望ましいのか議論の末、半年間かけ二項目にまとめ、経営者自ら判断し、自己評価してもらい、環境文明21の審査員一〇人で審査して決めている。

これを通して少しでも日本の企業社会全体が、環境を大事にしなから経営をすることで、社員も環境を考えて幸せになっていく。そして、社会全体に影響を与えていくことができる。

祝辞は経営者「環境力」クラブ副会長の大川哲郎・大川印刷代表取締役が、オンラインで次の要旨を伝えた。

「SDGsの認知度が上がり、環境に対する取り組みも増えていく。環境に対する取り組みが高まっているが、その一方で、実際の具体的な取り組みや成果による環境と社会の両立はまだまだ。受賞者に敬意を表します。大賞はスタートです。私の好きなドラッカーさんは「成果は組織の外にある」と言っています。どのような社会的にインパクトを与え、環境分野で言えば、皆さんが事業や環境活動を

通じて取り組み始め、具体的に活動が成果として出せるかどうかにかかっている。

顕彰式では、受賞者発表・授賞理由の紹介および賞状授与を、藤村代表理事が務め、一人ひとりの会社組織と地域における受賞者の具体的な環境への取り組み、活動のリーダーシップをあげ、評価点を解説した。大賞受賞者表彰後に行われた受賞者による「私の環境力」発表は次の通り。

【環境力】大賞受賞者 浅沼晃・盛岡信用金庫理事長(岩手県盛岡市、金融・保険業)「私の環境力」

「環境文明21(藤村コノエ代表理事)は、次の要旨を述べた。

「環境文明21は三〇年前に立ち上げた。その当時から地球温暖化と言われる地球環境問題が深刻になってきた。このままいくと非常に大きな問題となる。そのため、役所も企業も努力しなければいけない。独立した立場の市民組織の意見も重要だと思いついて、環境文明21が立ち上がった。発足当時から企業との付き合いの中で、特に企業の場合、経営者の力が非常に重要だと気づき、会員と考えた結果、経営者に着目して経営者「環境力」大賞を設け、経営者の持っている環境に対する思い、技術的な対応などを見せていた

「環境文明21は三〇年前に立ち上げた。その当時から地球温暖化と言われる地球環境問題が深刻になってきた。このままいくと非常に大きな問題となる。そのため、役所も企業も努力しなければいけない。独立した立場の市民組織の意見も重要だと思いついて、環境文明21が立ち上がった。発足当時から企業との付き合いの中で、特に企業の場合、経営者の力が非常に重要だと気づき、会員と考えた結果、経営者に着目して経営者「環境力」大賞を設け、経営者の持っている環境に対する思い、技術的な対応などを見せていた

き、表彰することで社会全体の底上げを図りたいと、NPOとして考えた。では、どういった経営が望ましいのか議論の末、半年間かけ二項目にまとめ、経営者自ら判断し、自己評価してもらい、環境文明21の審査員一〇人で審査して決めている。

これを通して少しでも日本の企業社会全体が、環境を大事にしなから経営をすることで、社員も環境を考えて幸せになっていく。そして、社会全体に影響を与えていくことができる。

祝辞は経営者「環境力」クラブ副会長の大川哲郎・大川印刷代表取締役が、オンラインで次の要旨を伝えた。

「SDGsの認知度が上がり、環境に対する取り組みも増えていく。環境に対する取り組みが高まっているが、その一方で、実際の具体的な取り組みや成果による環境と社会の両立はまだまだ。受賞者に敬意を表します。大賞はスタートです。私の好きなドラッカーさんは「成果は組織の外にある」と言っています。どのような社会的にインパクトを与え、環境分野で言えば、皆さんが事業や環境活動を

通じて取り組み始め、具体的に活動が成果として出せるかどうかにかかっている。

顕彰式では、受賞者発表・授賞理由の紹介および賞状授与を、藤村代表理事が務め、一人ひとりの会社組織と地域における受賞者の具体的な環境への取り組み、活動のリーダーシップをあげ、評価点を解説した。大賞受賞者表彰後に行われた受賞者による「私の環境力」発表は次の通り。

【環境力】大賞受賞者 浅沼晃・盛岡信用金庫理事長(岩手県盛岡市、金融・保険業)「私の環境力」

「環境文明21(藤村コノエ代表理事)は、次の要旨を述べた。

「環境文明21は三〇年前に立ち上げた。その当時から地球温暖化と言われる地球環境問題が深刻になってきた。このままいくと非常に大きな問題となる。そのため、役所も企業も努力しなければいけない。独立した立場の市民組織の意見も重要だと思いついて、環境文明21が立ち上がった。発足当時から企業との付き合いの中で、特に企業の場合、経営者の力が非常に重要だと気づき、会員と考えた結果、経営者に着目して経営者「環境力」大賞を設け、経営者の持っている環境に対する思い、技術的な対応などを見せていた

「環境文明21は三〇年前に立ち上げた。その当時から地球温暖化と言われる地球環境問題が深刻になってきた。このままいくと非常に大きな問題となる。そのため、役所も企業も努力しなければいけない。独立した立場の市民組織の意見も重要だと思いついて、環境文明21が立ち上がった。発足当時から企業との付き合いの中で、特に企業の場合、経営者の力が非常に重要だと気づき、会員と考えた結果、経営者に着目して経営者「環境力」大賞を設け、経営者の持っている環境に対する思い、技術的な対応などを見せていた

き、表彰することで社会全体の底上げを図りたいと、NPOとして考えた。では、どういった経営が望ましいのか議論の末、半年間かけ二項目にまとめ、経営者自ら判断し、自己評価してもらい、環境文明21の審査員一〇人で審査して決めている。

これを通して少しでも日本の企業社会全体が、環境を大事にしなから経営をすることで、社員も環境を考えて幸せになっていく。そして、社会全体に影響を与えていくことができる。

祝辞は経営者「環境力」クラブ副会長の大川哲郎・大川印刷代表取締役が、オンラインで次の要旨を伝えた。

「SDGsの認知度が上がり、環境に対する取り組みも増えていく。環境に対する取り組みが高まっているが、その一方で、実際の具体的な取り組みや成果による環境と社会の両立はまだまだ。受賞者に敬意を表します。大賞はスタートです。私の好きなドラッカーさんは「成果は組織の外にある」と言っています。どのような社会的にインパクトを与え、環境分野で言えば、皆さんが事業や環境活動を

通じて取り組み始め、具体的に活動が成果として出せるかどうかにかかっている。

顕彰式では、受賞者発表・授賞理由の紹介および賞状授与を、藤村代表理事が務め、一人ひとりの会社組織と地域における受賞者の具体的な環境への取り組み、活動のリーダーシップをあげ、評価点を解説した。大賞受賞者表彰後に行われた受賞者による「私の環境力」発表は次の通り。

【環境力】大賞受賞者 浅沼晃・盛岡信用金庫理事長(岩手県盛岡市、金融・保険業)「私の環境力」

「環境文明21(藤村コノエ代表理事)は、次の要旨を述べた。

「環境文明21は三〇年前に立ち上げた。その当時から地球温暖化と言われる地球環境問題が深刻になってきた。このままいくと非常に大きな問題となる。そのため、役所も企業も努力しなければいけない。独立した立場の市民組織の意見も重要だと思いついて、環境文明21が立ち上がった。発足当時から企業との付き合いの中で、特に企業の場合、経営者の力が非常に重要だと気づき、会員と考えた結果、経営者に着目して経営者「環境力」大賞を設け、経営者の持っている環境に対する思い、技術的な対応などを見せていた



藤村コノエ代表理事



加藤三郎顧問



大川哲郎副会長



受賞者前列左から中村慎一郎氏、畑元浩氏、尾島敏也氏

【奨励賞受賞者】中村慎一郎(朝日精工)「オール代表取締役(東京都千代田区、印刷業)」「ゼロエミッション」

話題提供で経営者「環境力」クラブ会長の林英夫・武州工業(株)代表取締役が「脱炭素時代における企業の役割」の演題で次の要旨を講演した。

「一人ひとりの発表を聞いて、こういう考えを持つ方たちがどんどん増えていってほしいと思います。もっともっと連携をしながらやれたらいいなと思っております。

「今日うちの会社のことを紹介したいと思えます。こちらは自動車部品の製造業なので、ものを造らないのが一番カーボンニュートラルに近づけるので、私たちが取り組んでいるのは、自動車業界で「ムリ、ム



林英夫会長

グ)大会とか、九州IEE界の大会に呼ばれました。生産性本部の方は、大企業の日産やトヨタの方たちがほとんどですけど、少しずつ中小のやり方を大企業もやらなければいけない時代になって来ましたが、経営者「環境力」大賞で提唱し受賞者が行っている事例を挙げた。

閉会の挨拶で藤村代表理事は、「政府はGXで化石燃料からクリーンなエネルギーで脱炭素社会の政策展開をし始めましたが、まだまだ道筋は明確でない。中小企業は何をすればいいのか分からない」「しかし、とにかく二酸化炭素を減らさなければいけない。大企業よりも中小の方が早く転換が進むのではないかと思っています。気付きながら行動すること、安全安心で心豊かな持続可能な社会づくりをするのは、私たちの責務と覚悟です」と締め括った。